

令和2年度 第2回五島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和2年10月29日（木） 午後4時～4時36分
- 2 場 所 五島市役所3階 第1委員会室
- 3 出席者
【構成員】 野口市長、藤田教育長、坂本教育委員、杣川教育委員、濱村教育委員、山本教育委員
【事務局】 政策企画課課長補佐、教育委員会総務課長、学校教育課長、生涯学習課長、教育委員会総務課総務班係長

4 傍聴者 なし

5 内 容

(1) 開会

【事務局】

みなさま、こんにちは。

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただ今より、令和2年度第2回五島市総合教育会議を開会させていただきます。

総合教育会議運営要綱の規定により、今回は最初から私が進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(2) 前回会議の概要

【野口市長】

それでは、配付してあります次第に沿って進めさせていただきます。まず、はじめに「前回会議の概要」となっております。7月30日に開催いたしました第1回目の会議の概要について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

前回会議の概要について説明。

(3) 協議

【野口市長】

それでは早速協議に入りたいと思います。前回に引き続き、教育に関する大綱の策定について、

協議を行いたいと思います。

前回、基本的な考え方として、策定にあたりましては、現大綱の柱を引き継ぐ形で見直しを行っていくことを確認させていただきました。

そこで私の方から、5つのキーワードを提示させていただきました。先ほど事務局から説明がありました。一つ目が、「人を思いやり、いじめのない学校」、二つ目が、「学力、体力の向上」、三つ目が、「ふるさとを学び、ふるさとに誇りをもてるような子どもの育成」、四つ目が、「日本、世界に羽ばたくような人材の育成」、五つ目が、「教育環境の整備」でございます。

先ほど、事務局からの説明にもありましたが、教育委員の皆様からもいくつかのご意見をいただきました。そのことを踏まえまして、今回、事務局で大綱案を作成しておりますので、それぞれにご確認いただき、ご意見をいただきたいと思ひます。

資料については、事前にお配りしておりましたので、まず、一つ目の項目「生きる力を身に付けた、世界に羽ばたく子どもの育成」についてですが、この項目について委員の皆様から意見、質疑等をお願いしたいと思ひます。

【坂本委員】

柱はいいと思ひますけれども、説明文中でGIGAスクールとかSociety5.0という言葉がありますが、これを市民に出す時に、注釈を下の方に付けるとか説明を付けた方がいいのではないかと少し気になりました。

【事務局】

委員がおっしゃられるとおり、感覚的には分かっているけれども詳しい内容が説明できないことも多々ありますので、注釈を入れたいと思ひます。

【野口市長】

これ以外にも難しい言葉があれば、言葉の意味を後ろの方にでも付けていただくような配慮をお願いできればと思ひます。

他ございませんでしょうか。

【委員全員】

意見なし

【野口市長】

それでは、また、何かありましたら後からでもお願いいたします。

次に二つ目の項目「地域の特性を学び、ふるさとに愛着と誇りを持つ子どもの育成」についてでございます。これについても、ご意見ご質疑等をお願いしたいと思ひます。

【委員全員】

意見なし

【野口市長】

それでは、三つ目の項目「豊かな心を育み、子どもに寄り添う教育の推進」についてでございます。これについて、ご意見ご質疑等をお願いいたします。

【濱村委員】

前回の大纲よりも、具体化されていて分かりやすいと思います。そして、これとは別に違う視点での基本計画も策定されると聞いていますので、素晴らしい案だと思います。

【坂本委員】

私も事前にこの資料をいただきまして、前回いろいろと発言をさせていただきました。教育委員会事務局の方で十分練られていて、時間がかかったらうかと、よくまとめられていると思います。

【野口市長】

それでは次に、四つ目の項目「ともに学びあう生涯学習の推進」でございます。これについて、ご意見ご質疑等をお願いいたします。

新図書館については、聞き及んでいるかと思いますが、11月2日に入札を予定しておりまして、ここで入札がうまくいけば12月議会で承認をいただいた後に着工する予定としております。

【坂本委員】

生涯学習については、私はやはり生涯学習の基本というのは自分で自分を磨いていくということではないかと思えます。たとえ箱物や拠点施設があっても、自分で自分を磨こうとする意志、それが無い限りどうかなという考えのもとに、「自己を磨き、ともに学びあう生涯学習の推進」とした方が柱としていいのではないかと思えます。やはり、井の中の蛙で五島の島だけに住んで育っている方は視野が狭い、人にもまれていない、先輩から指導されたことが無い、もろもろのようなことが感じられます。そういう中で、やはり自己を磨くということはまず大事ではないかと思えます。以上のことから柱に追加してはどうかと提案したいと思えます。

【野口市長】

4つ目の柱の「ともに学びあう生涯学習の推進」の前に「自己を磨き」を追加して「自己を磨き、ともに学びあう生涯学習の推進」という表題にしてはどうかというご提案でございますが、いかがでございましょうか。

【山本委員】

いいと思えます。

【野口市長】

まずは自分をそれぞれが高めようとする、そういった意識を持って、そしてその上でともに学びあうというご意見でございます。

【坂本委員】

私が「自己で」と言ったのは、言葉を短くするために言ったのですが、「自分で自分を磨く」という言葉が好きで信条にしているものですから。

【教育長】

当然その下の説明文の中にも、自己を磨くという言葉を入れておかななくてはならないと思います。

【野口市長】

そうですね、この表題に合わせて中身の文章にも入れさせていただきたいと思います。

【教育長】

2行目あたりに、「あらゆる場所において学習し自己を磨き、その成果を・・・」のような感じで文章を作ってはどうかと思います。

【野口市長】

それでは、4項目については、そういったことで整理をさせていただきたいと思います。

次に、五つ目の「協働する地域社会の形成」についてでございます。これについて、ご意見、ご質疑等をお願いいたします。

私の方からお尋ねなんです、文章の中に家庭の教育力の低下が懸念されるということで、この家庭教育力の向上を図るために、あらゆる家庭教育に関する学習活動の充実に努めますとありますが、これは具体的にどういう形のものやっいていこうとしているのか少し説明をしていただきたいと思います。

【事務局】

子育て支援に関しましては、今も実際行っているんですが、大きな柱としては2つ、家庭教育学級、これは幼稚園、保育園、小中学校、PTAあるいは自主学習グループ、そういったところに子を持つ親が学習する場、それから悩みを語り合う場として年間を通して継続的、計画的に学習をするということを行っております。このほかにも子育て出前講座ということで、学校と連携をいたしまして、その保護者あるいは地域の方々を対象に子育ての不安や悩みを解消する、この子育て出前講座につきましては、入学説明会であったりその他の研修で、単発での実施を想定したものでありますが、今のところこの二つを実施しておりますけれども、今後としましてはやはり中身の質自体も上げていかなければならないというところもありますので、講師のスキルアップ研修であったりフォローアップ研修であったり、そういったところを充実させながら講座の内容を充実していきたいと考えております。

【野口市長】

また、コミュニティスクールについても、いま導入されているところの状況も含めてご説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

現在、岐宿小学校と岐宿中学校で先行して行っております。

【野口市長】

学校運営協議会というのは、メンバーはどういった方たちですか。

【事務局】

メンバーは、市の職員もおられますし、地域の方々がメインになってくると思いますが、学校それからPTA そういったところがメンバーとなっております。今現在、岐宿地区の方が動きだしておりますけれども、今年は、崎山小学校、が導入をしていく計画にしております。

【野口市長】

あと全部で21校ありますが、今後は大体導入できそうですか。

【教育長】

基本的には、全部の学校が学校支援会議というのを持っていますので、それをもっと地域と学校がベクトルを同じにするということで、学校運営協議会を設置したところはコミュニティスクールになっていきますので、例えば、岐宿の場合は、まちづくり協議会の中からも代表を出していただいて、そして協議会の担当がいて、そして学校としっかり接続をしていただくという状況ですので、まずはコミュニティスクールにするためにはこの学校運営協議会を設置することが前提になってくるということでございます。

【坂本委員】

学校支援会議があり下地ができていますから、それに地域を巻き込んでということですから、私は作りやすいのではと思います。

【濱村委員】

岐宿地区は、コミュニティスクールに保育園も加わってきて幅が広がってきたということを知っているんで、ほんとに地域で取り組んでいるところが素晴らしいと思います。

【野口市長】

もともと岐宿地区はそういった地域での公民館活動などを中心に行っているところで、小学校を統合する時にかなり心配されていた向きもあったのですが、そこはやはり学校を運営するのに地域の声を反映させていこうということもあって、統合を機に動き出したのではないかと思います。大きいところは難しいでしょうね。福江小とか緑小とか。

【教育長】

町内会がかなり分散しているので難しいとは思いますが。

【坂本委員】

将来はやらないとでしょうね。

【柚川委員】

運動会についても、半分は地域の方が加わっていますもんね。

【坂本委員】

岐宿はコミュニティスクールの研究指定を受けているのですよね。

【事務局】

昨年で終わりました。

【坂本委員】

例えば発表などの時に代表校の地域代表などを参加させてやればよかったんでしょうけどね。

【事務局】

活動の中では、ゲストティーチャーなどで入っていただいております。

【野口市長】

コミュニティスクールについては、今後もよろしくお願いたします。

それでは次に、六つ目の「安全で安心できる教育環境の充実」についてでございます。これについては、前回、佐藤委員からも感染症対策について入れてもらいたいとか、あるいは今回の災害の関係とか避難所になった関係もございますので、そういったことについてもご意見をいただいているところでございますが、こういった形でまとめていただいております。

【坂本委員】

ここも先ほど言ったように、よく練られているなど感謝しております。「安全で安心できる」という言葉も入れていただいておりますので、いいと思います。

【野口市長】

おかげさまで、耐震化の工事は五島市の場合はずべて終わりました。これからは非構造部材ということで、それ以外の部分についての耐震対策を進めていくということでございます。

よろしいでしょうか。

【委員全員】

はい。

【野口市長】

一項目から六項目までご審議いただきましたけれども、全体的に何かございませんでしょうか。

【坂本委員】

最後の六項目に関わることですが、「二次離島における教育の振興・充実に努めます」とありますが、しま留学については、本当に感謝しております。ところが、幼児教育、保育に関しては非常に不満が住民の間にあります。というのが、中尾市長さん時代にへき地保育所があったのが、1世帯になって子どもが2人になりました。1世帯では認められないというような形で町内会長も12名集められてその中で、2世帯以上になったら再開するからということでしたが、その後2世帯以上にもなったんですが、今度は3歳児以上が3年間継続しなければ再開できないということで、後から次々にそういうことを出してきて、なんか保育所の再開に消極的な姿勢が感じられます。また、地域おこし協力隊で久賀に住み着いてくれた方も新しい子どもが誕生しますし、家族留学で来る方も保育園児がいても対応できるんだということであれば、より安心して来られるのかなという思いがあります。

【野口市長】

保育の仕方も、保育園を構えてやる方法と、あるいは子どもさんの数が少ない時には家庭的な雰囲気の中でやるようないろんな保育サービスの提供の仕方があります。あとは保護者の方がどう考えておられるかということと、最大のネックは保育士さんの確保です。これがなかなか福江島の中でも難しい中であって、家庭的な保育をやるにしても資格を持っている方の確保が継続的にできるのかというようなことも、もろもろ考えて判断させていただくことになると思います。そういった声があることは久賀に行くたびにいただいておりますので、そのことについてはしっかり認識をさせていただきたいと思います。

他ございませんでしょうか。

【濱村委員】

同じことになるかもしれませんが、幼児教育の部分で黄島の子どもも実際福江に来ています。その子については、船の関係で船が着いてから帰りの船の時間まで2時間、3時間、保育園にいて帰るといような現状もあって、この子たちが小学校に行く時にはどうするんだろうと、お母さんも黄島にいたいけど福江に引き上げて行くことを考えていると聞いています。もちろん市側の情勢も分かるんですけど、その人も結婚でこちらに来ていて、そういうことで福江の方に出て行かないといけないという葛藤があるようです。どうしようもないと思いますけれど久賀の子どもにしても夕方になったら船が欠航するのではないかという心配とかそういう現状もあるので、何か対策がないかなと思います。逆にいうと久賀で保育園をしてくれれば、森の保育園みたいな園舎がなくても自然の中でする保育園というのが都会では流行っていて逆に福江から久賀に行こうという親も数人いるんじゃないかなと思います。いろんな発想の転換をして対応していければいいかなと思います。

【坂本委員】

ただ、市長もおっしゃったように保育士を確保するのが、へき地医療でも医者も確保するのも非常に厳しい状況の中で医者はなんとか確保できていますが、保育士を確保するのがとにかく大

変だと聞いておりますので、厳しい面もあると思いますけれども。

【野口市長】

地元の方がずっと残っていれば、椋島みたいに最後の1人までは面倒を見るんですが、一旦止めてからは、なかなか再開するのは難しいという現状があります。いま、同じようなことで奈留島の保育園が子どもの数はそこそこいるんですが、この間までやっていた民間が撤退するというので、今は市が直営で社会福祉協議会にお願いする形でやっております。ここもいつかはこの施設から出ていかななくてはなりませんので、小学校の空き教室が使えないとかかそういったことも考えております。これはまた教育委員会とも話していかなくてはなりません、いずれにしてもいろんなことを考えながらできるだけ育ったところで基本的には教育をしていくという大原則についてはしっかり、市としても持っておきたいと思っております。

他ございませんか。

ないようでしたら、表紙に「島の宝子どもたちが輝く未来へ」というテーマを付けております。これについて、このテーマに至った経過、あるいは前回との比較の部分について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

新大綱案のテーマがいま紹介のあった「島の宝子どもたちが輝く未来へ」としてしております。これまでのテーマが「子どもたちに島を託す」となっておりました。今回のテーマにつきましては、第2期「五島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」に「五島の宝・子どもが育ち、輝くしまをつくる」という基本目標がありまして、こちらから引用をしております。テーマに込められている想いとしましては、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう子育て環境の充実を図るという想いを込めて事務局の方で考えております。

【野口市長】

第2期の総合戦略と整合性を取る形で定めているということでございます。今回のこの大綱のテーマということで「島の宝子どもたちが輝く未来へ」ということでございますが、ご意見等ございませんか。

【坂本委員、柚川委員】

素晴らしいと思います。

【野口市長】

これでテーマも含めましてご審議いただきました。一点目が Society5.0 など難しい言葉については、その言葉の解説を分かりやすいように表示をしていただくということ。それから二点目が、大きな項目の4「ともに学びあう生涯学習の推進」となっておりますが、これを「自己を磨き、ともに学びあう生涯学習の推進」に変えて、そしてこの自己を磨く部分について下の文章の

中に入れ込むということでございます。入れ込む文章については、また事務局の方で修正を加えまして後日委員の皆様にご確認をいただきたいと思いますが、そういう形でよろしいでしょうか。

【委員全員】

はい。

【野口市長】

それでは、いま申し上げた内容で、令和3年度以降の大綱にしたいと思います。
よろしいでしょうか。

【委員全員】

はい。

【野口市長】

それでは、本日の協議はこれで終了したいと思います。

(4) その他

【野口市長】

次に、次第では「その他」となっておりますが、何かこの場で協議したいことはございますでしょうか。

【委員全員】

ありません。

(5) 次回開催について

【野口市長】

それでは、最後になりますが、総合教育会議の次回開催日のある程度決めておきたいと思いますが、事務局からお願いします。

【事務局】

本日、一部修正点はありましたが、大幅な修正ではなく、修正する内容も今回確認できておりますので、完成版の確認につきましては、改めて総合教育会議は開かず、来月の定例教育委員会の折に確認をしていただきたいと思います。よって、今年度につきましては、今回の会議で終了とし、次回は、来年7月に開催したいと考えております。しかし、市長や教育委員会から協議や意見交換したい内容がございましたら、事務局までご連絡いただければ、第3回目の会議を調整したいと思います。また、緊急的に開催の必要が生じた場合につきましては、事務局より皆様へご連絡したいと思います。

【野口市長】

それでは、次回は、来年7月で調整をさせていただきたいと思います。詳細につきましては、事務局と調整しまして、決定後に通知したいと思います。

(6) 閉会

【野口市長】

それではこれもちまして、第2回総合教育会議を終了したいと思います。
ありがとうございました。